

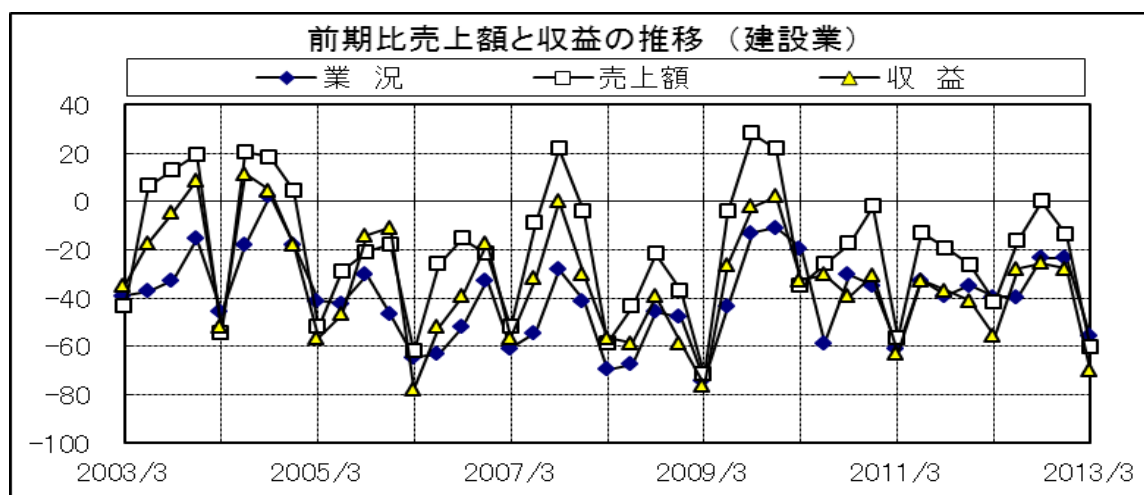
## 建設業 43 企業（回答率 100.00%）の調査結果です

### □ 景 況

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業 況	-23.4	-23.3	-55.8	-39.5
売上額	0.0	-13.9	-60.4	0.0
収 益	-25.6	-28.0	-69.8	-18.6

今期の業況判断DIは△55.8と、前期比 32.5 ポイント下降した。地区別にみると、浦河、静内、えりも、広尾地区で下降、三石、様似地区は横ばいとなっている。

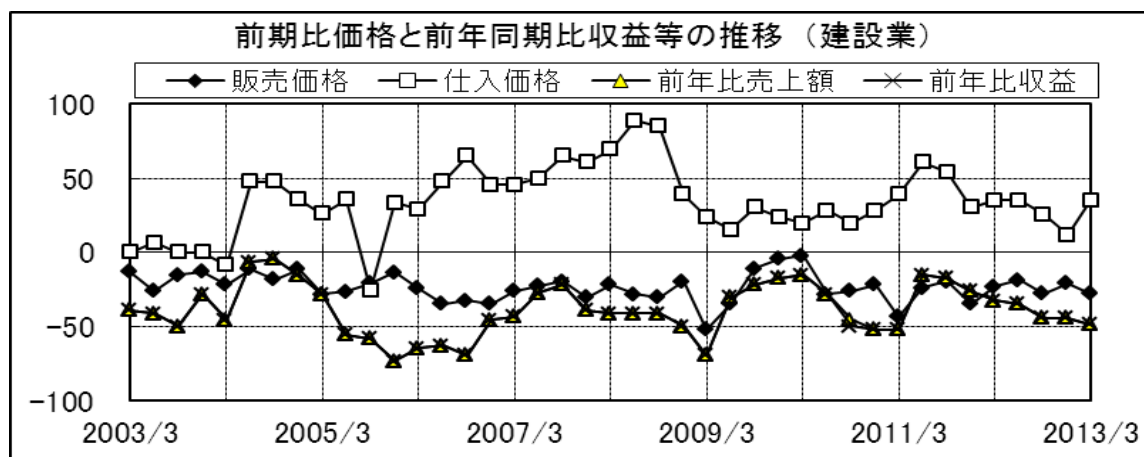
売上額判断DIは△60.4ポイントと、前期比 46.5ポイント下降した。収益判断DIは△69.8と、前期 41.8ポイント下降した。



### □ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
請負価格	-27.9	-21.0	-27.9	-4.7
仕入価格	25.6	11.6	34.9	28.0

請負価格判断DIは△27.9と、前期比 6.9 ポイント下降し、価格低下基調を強めている。仕入価格判断DIは 34.9 と、前期比 23.3 ポイントの上昇、価格上昇基調を強めている。



### □ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	-18.6	-16.3	-18.6	-18.6
人手状況	0.0	-14.2	-4.7	-6.9

残業時間判断DIは△18.6と、残業時間が減少したとする割合が増え、前期比 2.3 ポイント下降した。

人手過不足判断DI△4.7と、前期比 9.5 ポイント上昇し、人手不足感を弱めている。

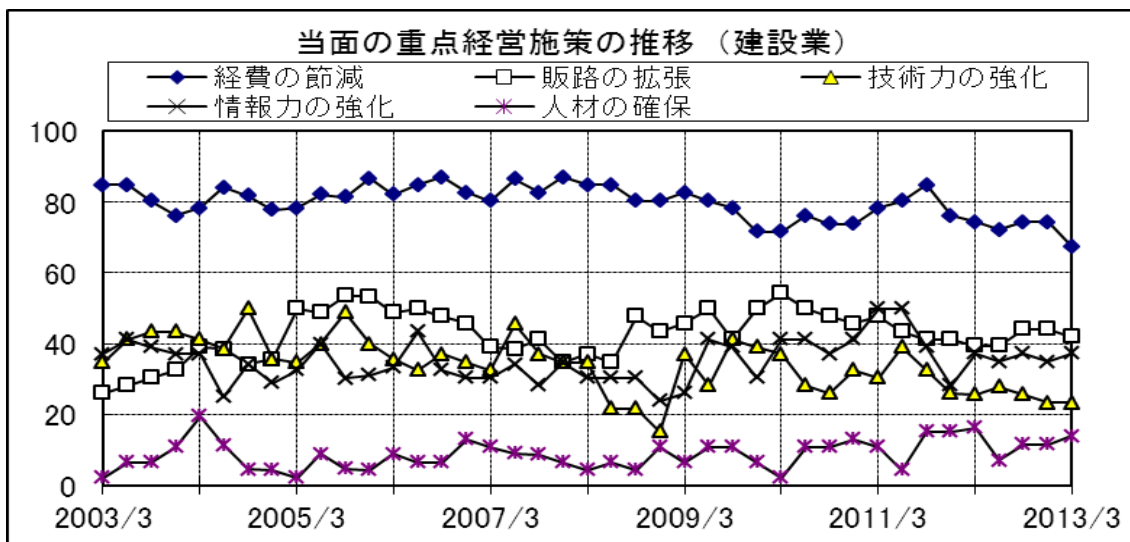
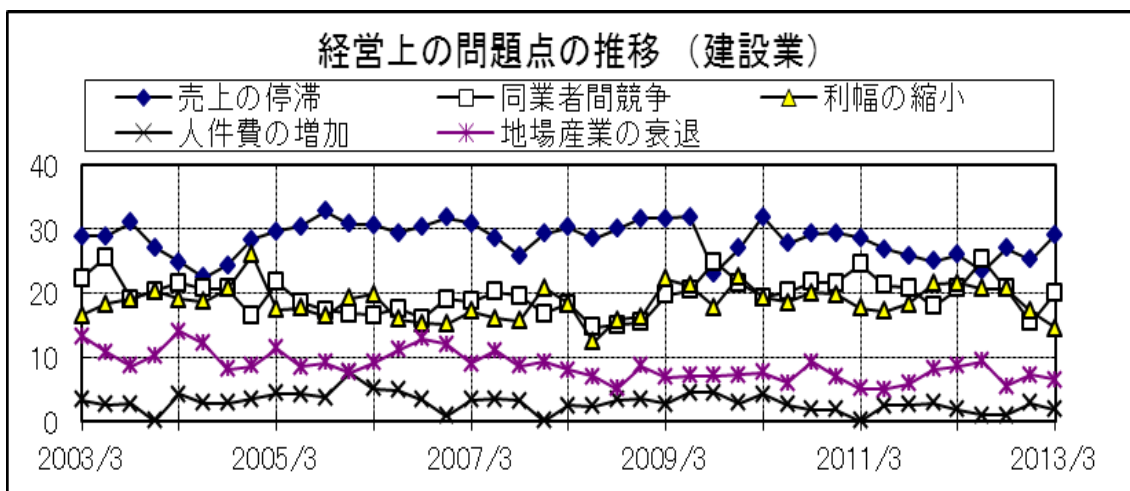
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD Iは、前期△11.6から△9.3ポイントへと上昇した。設備投資実施企業割合は16.3%と、前期11.6%比4.7ポイント上昇、前期の5社に対し7社の実施となった。来期の設備投資は、今期と同数の7社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」をトップに挙げ29.1%、次いで「同業者との競争」20.0%、「利幅の縮小」14.5%、「材料価格の上昇」9.1%と続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ67.4%、次いで「販路の拡張」41.9%、「情報力の強化」37.2%、「技術力の上昇」23.3%の順となっている。



来期の見通し

来期の予想業況判断D Iは△39.5と、今期比16.3ポイントの上昇見通しとなっている。予想売上額判断D Iは0.0と、今期比60.4ポイントの大幅な上昇を見通している。予想収益判断D Iは△18.6と、今期比51.2ポイントの大幅な上昇を見通している。予想請負価格判断D Iは△4.7と、今期比23.2ポイントの上昇を見通している。予想仕入価格判断D Iは28.0と、今期比6.9ポイントの下降を見通している。

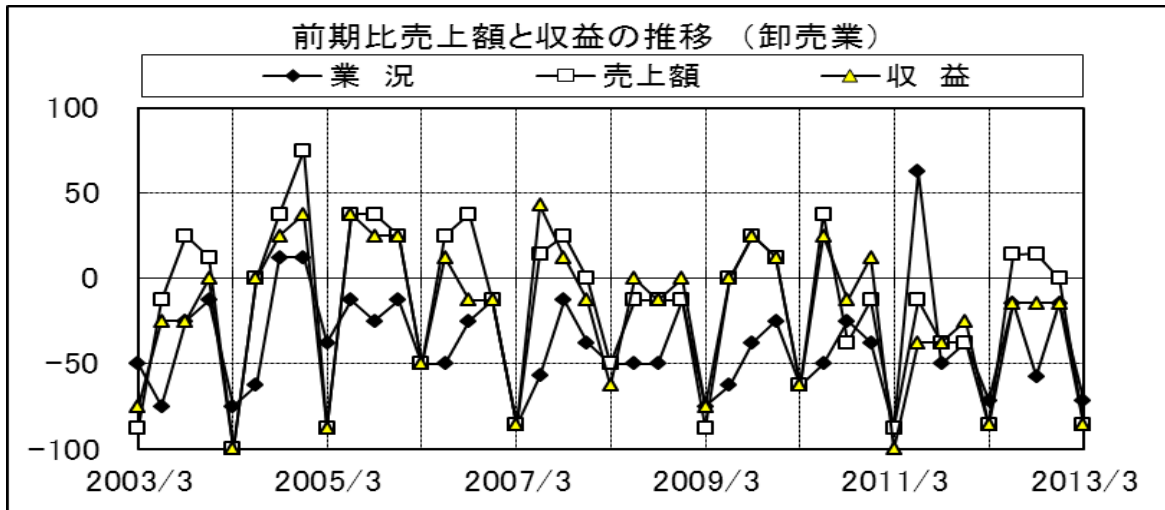
# 卸売業 7企業（回答率 100.0%）の調査結果です

## □ 景況

DI 値の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業況	-57.2	-14.3	-71.5	-42.9
売上額	14.3	0.0	-85.7	0.0
収益	-14.3	-14.3	-85.7	0.0

今期の業況判断DIは△71.5と、前期比 57.2 ポイントの下降となった。地区別に見ると、浦河、三石、様似地区で下降、静内地区で横ばいとなっている。

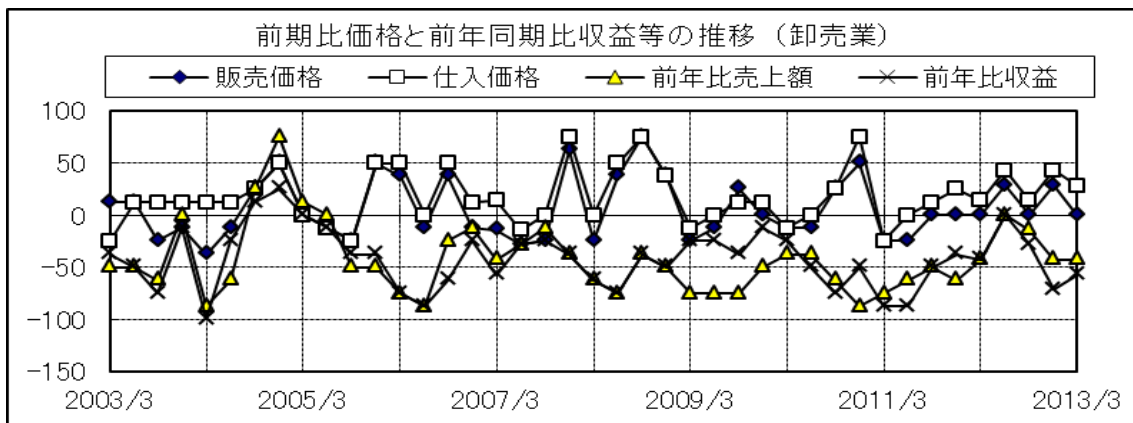
売上額判断DIは、前期比 85.7 ポイントの大幅下降となった。収益判断DIも△85.7で、前期比 71.4 ポイント下降した。



## □ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
販売価格	0.0	28.6	0.0	14.3
仕入価格	14.3	42.9	28.6	14.3

販売価格判断DIは、前期 28.6 からゼロ水準へと下降した。仕入価格判断DI 28.6 は、前期比 14.3 ポイント下降した。業種別に見ると、水産は販売価格・仕入価格ともに下降、食品は販売価格、仕入価格ともに横ばいとなっている。



## □ 雇用面の動き

DI 値の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	14.3	0.0	-28.6	0.0
人手状況	14.3	14.3	28.6	-14.3

残業時間判断DIは、残業時間が減少したとする企業割合が増え、ゼロ水準から 28.6 ポイント下降した。

人手過不足判断DIは 28.6 と、前期比 14.3 ポイント上昇し、人手過剰感を強めている。

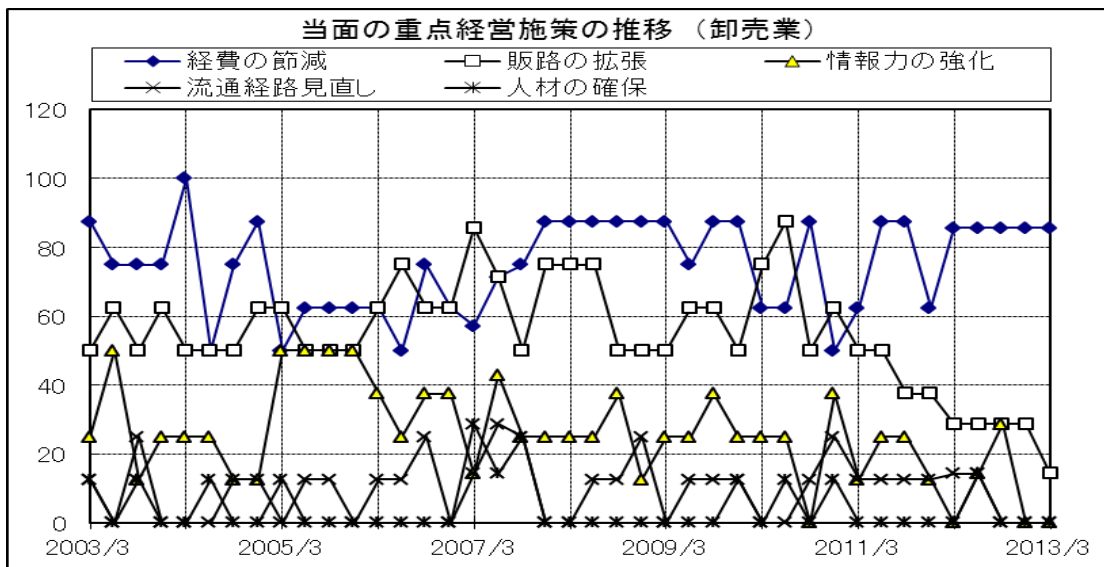
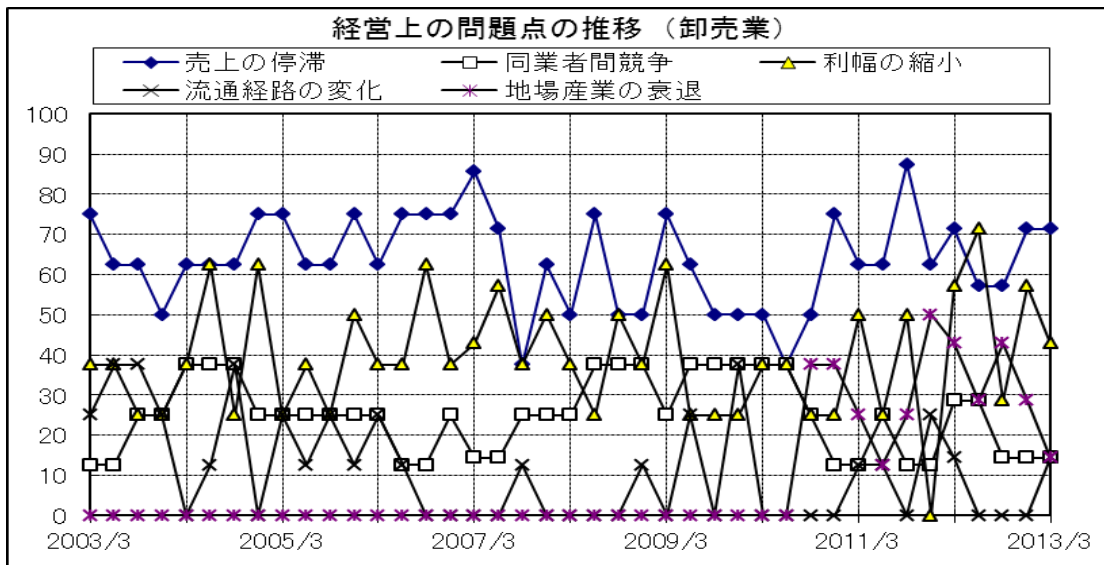
## □ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD Iは、14.3で前期と同値となった。設備投資実施企業はない。また、調査先において来期の設備投資の予定もない。

## □ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」71.4%、「利幅の縮小」、「取引先の減少」が42.9%、「同業者との競合」「輸入製品との競合」「流通経路変化による競争の激化」「諸経費の増加」「天候の不順」「地場産業の衰退」が同率の14.3%で続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ85.7%、次いで「販路の拡張」「品揃えを充実する」「新事業を始める」「教育訓練を強化」「不動産の有効活用」が同率の14.3%となっている。



## □ 来期の見通し

来期の予想業況判断D I  $\Delta$ 42.9は、今期比28.6ポイントの上昇を見通している。予想売上額判断D Iは今期 $\Delta$ 85.7から、ゼロ水準へと大幅な上昇を見通している。予想収益判断D Iも今期 $\Delta$ 85.7から、ゼロ水準へと大幅な上昇を見通している。予想販売価格判断D Iは今期ゼロ水準から、14.3ポイントの上昇を見通している。予想仕入価格判断D Iは今期比14.3ポイントの下降を見通している。